

I 学校の概要

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現推進モデル校事業 坂出市立加茂小学校

◆児童数及び教員数

○児童数

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	特別支援	全 校
1学級 24名	1学級 25名	1学級 30名	1学級 26名	1学級 33名	1学級 28名	3学級 5名	9学級 171名

○教員数 13名

◆学校の特色

本校区は坂出市の南東部に位置し、交通の便のよさから住宅地が増えてきているものの、児童数は緩やかな減少傾向にある。地域の人々や保護者は、本校の教育活動に対して協力的で、健全育成のための様々な取組を実施し、PTA活動や体育的活動も盛んである。児童は素直な子が多く、家庭・地域の教育力を得て、心身ともに健やかに成長している。

本校では、令和5年度に、香川県小学校教育研究会国語部会研究発表校として坂出市教育委員会研究指定校等事業を受け、国語教育に係る研究推進を行った。目的や伝えたいことを明確にし、相手意識を大切にした言語活動を設定することが、主体的な学びにつながる成果を得た。そして、令和6年度は、「自己選択・自己決定」の場を授業の中に工夫して設定することで、学習の個性化を図ることに取り組んできた。しかし、それが協働的な学びと効果的に結び付き、自己有用感の高まりにつながっているかといえ、充分とは言えない。そこで、今年度は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実をめざすことで、学びの質の高まりとともに自己有用感の醸成が図れるのではないかと考え、研究を推進している。

II 研究主題等

研究主題

他者と関わりながら楽しさを感じ、個が高まる学びづくり

◆研究主題設定の理由

昨年度の研究では、子どもが課題解決に向かって主体的に学習を進めていく姿をめざし、「自己選択・自己決定」の場を工夫して設定する授業づくりを行った。さらに、個を活かす協働的な学びの充実を通して、自己有用感や学ぶ楽しさを実感させる取組を推進してきた。

令和6年度の県学習状況調査質問紙調査における肯定的回答を見ると、「分からない問題があるとき、見方や考え方を変えながら、あきらめずに取り組んでいるか」の設問で70.4%（県平均－10.3pt）であり、無回答率も高かった。このことから、課題解決に向けて、様々な見方・考え方を使って粘り強く取り組むことに困難さを感じている児童が多いことが明らかとなった。また、「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができているか」の設問に対する肯定的回答は77.8%（県平均＋2.2pt）であり、県平均は上回るものの、決して高い割合とはいえない。

そこで、児童が自分のよさを認めるとともに、目を輝かせながら学習や活動に取り組み、課題解決に向かって他者と関わりながら、主体的に学習を進めていく学びをめざしたいと考え、本研究主題を設定した。

◆研究内容及び方法

- (1) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業づくり
 - ・「授業づくりの三訓」とタブレットPCの効果的な活用を意識して、次の3つの視点で研究授業を行う。
 - ① 子どもの知的好奇心を喚起し、学びがいのある学習課題を設定しているか。
 - ② 「自己選択・自己決定」の機会や場を設定し、児童が課題解決に向かって自己調整しながら学びを深めるプロセスを大切に授業づくりを工夫しているか。
 - ③ 必要感のある協働的な学びの場を設定しているか。
- (2) 「個を活かす協働的な学び」をめざした「ふれあい活動」の充実
 - ・上級生がリーダーシップを発揮する機会や場を設定する。
 - ・他者との関わりを通して自己有用感を高める工夫を行う。
 - ① 縦割り班活動は、5・6年生がリーダーシップを発揮し、関わりを深められる学びの場となっているか。
 - ② かがやき集会は、全校生が活躍し、互いを認め合い、個の変容を捉える場となっているか。
 - ③ 「いいかもね★コーナー」は、児童が楽しんで主体的に取り組むことで互いのよさを認め合い、個の変容を捉える場となっているか。

Ⅲ 成果の評価計画（検証方法）

- (1) 「研究成果の参考とする10の指標」による調査を年度始め（基準値）と年度途中（11月末まで）に実施し、比較する。
 - ・「個別最適な学び」に関わる項目
 - ① 授業の内容がどの程度分かるか。（児童）
 - ② 授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていると思うか。（児童）
 - ③ 分からない問題があるとき、見方や考え方を変えながら、あきらめずに取り組んでいるか。（児童）
 - ④ 児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしているか。（教員）
 - ⑤ 児童の思いや考えを大切に子ども主体の学びにしているか。（教員）
 - ・「協働的な学び」に関わる項目
 - ① 授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立て、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して発表する学習活動に取り組んでいるか。（児童）
 - ② 普段の授業では、学級の友だちとの間で話し合う活動をよく行っていると思うか。（児童）
 - ③ 学級の友だちと話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができているか。（児童）
 - ④ 自分の考えを伝えようと努力しているか。（児童）
 - ⑤ 普段の授業で、児童の学び合う場を取り入れているか。（教員）
- (2) 「全国学力・学習状況調査、県学習状況調査などによる学力分析を行う。

Ⅳ 研究成果の普及方法

- ① 香川の教育づくり発表会で、実践内容と成果を県下の教員に発信する。
- ② 坂出・綾歌地区の小学校教員に案内し、研究授業を公開する。
- ③ 学校だよりや学校ホームページを通して、研究内容や研究授業の様子などを公開する。
- ④ 現職教育の際に、成果と課題について話し合い、共有する。
- ⑤ 研究内容に沿った表現物を作成し、教職員、保護者、来校者へ研究成果を伝える。